

7. 対応方針（案）

○検証対象ダムの総合的な評価

検証対象ダムの総合的な評価を以下に示す。

- 1 洪水調節、新規利水について、目的別の総合評価を行った結果、最も有利な案は現行計画案（ハッ場ダム案）である。
- 2 また、流水の正常な機能の維持の目的について、目的別の総合評価を行った結果、ハッ場ダムによる利水放流を考慮する場合に最も有利な案は現行計画案（ハッ場ダム案）であり、ハッ場ダムによる利水放流を考慮しない場合に最も有利な案は「ガイドライン案」である。
- 3 1及び2の結果を踏まえると、流水の正常な機能の維持の目的について、最も有利な案は現行計画案（ハッ場ダム案）である。
- 4 これらの結果を踏まえると、総合的な評価の結果としては、最も有利な案は現行計画案（ハッ場ダム案）であると評価した。

○パブリックコメント、関係住民及び学識経験を有する者からのご意見

パブリックコメント、関係住民及び学識経験を有する者からの意見聴取を行い、さまざまな観点から幅広いご意見をいただいた。これらのご意見を踏まえ、報告書（素案）の修正等を行った。

○関係地方公共団体の長及び関係利水者からのご意見

関係地方公共団体の長及び関係利水者に対して意見聴取を行い、「継続」することが妥当であり、早期に完成させるべきなどの意見をいただいた。

○事業の投資効果（費用対効果分析）

「治水経済調査マニュアル（案）（平成17年4月 国土交通省河川局）」及び、「河川に係る環境整備の経済評価の手引き（平成22年3月 国土交通省河川環境課）」等に基づき、ハッ場ダムの費用対効果分析を行った結果、B/Cは約6.3であり、事業の投資効果を確認した。

○事業評価監視委員会からのご意見

関東地方整備局事業評価監視委員会に対して意見聴取を行い、「事業評価監視委員会としては、ハッ場ダム建設事業については継続することが妥当であるものとする。」との意見をいただいた。

○対応方針（案）

「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に基づき、検証に係る検討を行った結果、ハッ場ダム建設事業については「継続」することが妥当であると考えられる。